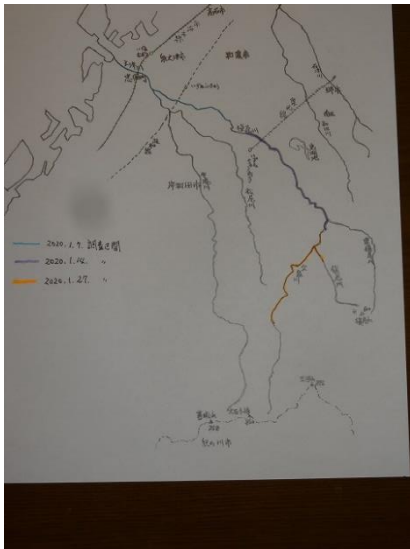


## 日本あちこち河川遡行記（第310回）

### 大阪 4-1. 榎尾川（その3）及び大阪 4-1-1. 父鬼川

令和2年1月27日（月）雨

2週間ぶりに遡行に出かける。連日の雨と曇りと暖冬に季節感が狂ってしまう。榎尾川の残りとその支流の「父鬼川」に向かう。



01.今回調査区間位置図（オレンジ色）

南海に乗り和泉中央駅に向かう。南海電鉄とバスにはこれから何回乗ることになるかと考えていると、車中の中吊りに同じ御同類が考えたポスターを見つける。ポスターよ！お前もか！



02.南海に乗れば同じことを言っているぞ

こだまと共に雨を引き連れてきたのか駅に着くと小雨がしとすと降っている。今日は1日4便の父鬼行きバスに乗り終点を目指す。バス乗り場には屋根

が有るが駅舎ビルと乗り場との間の僅かな隙間には屋根が無い。バス乗り場にも駅ビルにも座る場所が無く、ぼさっと立って 20 分間バスを待つ。鉄道管理者とバス乗り場の管理者が異なるための隙間が利用者を馬鹿にしているぞ。



03.和泉中央駅から 1 日 4 便の父鬼行きを待つ      04.駅舎ビルとバス乗り場の間に屋根が無い！

10 時 7 分発の泉大津駅からの南海バスが 3 分遅れでやって来て直ぐに発車。一方通行のバスセンター付近の道路を大きく回り込み 3 回の信号待ちをして 5 分後に駅前を離れる。御大層なバスセンターを設計したものだ。高度成長時代の遺産のような代物だ。

先日レンタサイクルで帰路に走った道をバスは南に向かう。途中の市道の「父鬼街道」は 2 車線としているが幅員が狭く、電柱が道の両側に続きバスは対向車が来る度に電柱の手前で止まることを繰り返す。西側には国道 480 号が並走しているが人家が無い所なので旧道のこちらを路線としている。

30 分ほど走り終点の父鬼に着く。終点らしく道路の東側に広い転回広場がある。広場の東の山裾には鳥居と老杉が立ち、石段が延びている。父鬼川は横尾川の支流となっているが、こちらの方が圧倒的に長い川である。横尾川源流部に有る西国 4 番札所の「施福寺 (横尾寺)」が有るのが優勢になった理由かも知れない。鬼よりも仏だ。



05. 終点「父鬼」バス停はエエ感じやな 06. バス U ターン広場の奥には神社が

逆遊行を開始すると雨が止むではないか！最初の橋を見るため谷底に降り30m ほどの高低差を上下する。国道（直ぐ東をバイパスがトンネルで通過しているのて今は府道に）に戻り北に向かうと郵便局が有る。父鬼の地名を教えてもらうために中に入る。いきなり聞くわけにもいかないのてレターパックを買って質問をすると、聞き慣れた質問のようで室内の奥の壁を指さしてくれる。「あそこに書いてありますので取り外しましょうか？」。そこまでしてもらわないのて望遠を利かせてカシャ。ここにもご同輩が多くやって来るようだ。



07. 父鬼郵便局で地名の謂れを訊くとこれを見てと

緩い下り坂の両側に民家が並ぶ道を進むと次の橋「新展橋」が見える。橋桁と橋脚が一体になったコンクリートラーメン橋である。応力解析が難しい橋であるが径間が普通の桁橋よりも長く取れる橋である。高欄の広い隙間からの子供の転落を防ぐためのパイプなどが追加されている。橋の向こうには道路が無く建設会社の事務室、住宅、資材置き場が点在するだけで、この会社のための橋でもなさそうな姿なので気にかかる。

3 番目の橋は国道が川を越える橋で面白い構造、組み合わせになっている。先



ず上流側にコンクリートアーチ橋が1車線分完成され、その後昭和30年に2車線に拡幅するため下流側に方杖付き3径間ラーメンを創り、アーチにくっ付けたような姿である。橋の前後に民家が密集しているため新たに2車線の橋が造れなかったのだろう。



08.桁と橋脚が一体となったラーメン橋が



09.お次は方杖付きラーメン橋が現る

大津川右岸の土手道を快調に西に進む。川幅が広がり泉州一の川を感じさせる姿である。河口部は阪神高速湾岸線と府道29号の「大津川大橋」が隣り合い、府道橋の直ぐ上流側には0.2kmのキロポストが立っている。ここから200mは湾岸線の下になるので行ってみるとフェンスが張られそれらしき標識柱も見えない。更に先に進むが何も無い。ここでUターンして本来の遡行を開始する。



12.河口部を横切る阪神高速湾岸線と府道29号



13.ゼロキロポストが見当たらず、0.2kmで我慢

来た道を暫く東に進み次の「盾並橋」を渡り左岸側の「忠岡町」に入る。この忠岡町、面積日本一狭い町で3.97㎡しかない。川の南に東西に延びる幅の狭い町で、南海も阪和線もあつという間に通り過ぎる町である。南隣の岸和田市との

合併も断り孤墨を守っている。

橋を越えると有りました本日 5 つ目の蓋が！町の花サツキが描かれている。再び南海本線を左岸側から見て今度は下を潜る道が有るのですなり上流に行ける。



14.日本一狭い町「忠岡町」は町花のサツキ



15.河口からは左岸側を上流に

左岸側を進むと今度は自動的に「牛滝川」の左岸側を進むことになる。ついでなので牛滝川の橋も診ておくことにする。合流点から 0.1 キロの所に距離標識が有る。槇尾川に無かったが牛滝川には有るじゃないか。どうやらこちらの方が格上のような。



16.ついでに右側の「牛滝川」を診ておく



17.牛滝川にはキロポストが有るぞ

3 つ診て本来の槇尾川の方に戻り両川の間泉大津市に入ると別の絵柄のマンホールが現れる。6 つ目じゃないか。こんなに現れると慌てふためくではないか。一瞬何の絵柄か分からなかったが機織り機と織子の絵柄だと分かる。毛織物の織機なのかな？羊よりもこちらの方がエエナ、エエヨ。





18.泉大津市の第二の絵柄が現れる

槇尾川に戻り左岸側を東に進む。住宅地に入ると格調高い道が暫く続きこりやええぞ。

府道 30 号を過ぎると川の南側に真新しい大きな病院が現れる。和泉市立総合医療センターと書かれている。市民病院は別に前からあったので医療センターと名付けたのだろう。



19.突如現れた格調高い道



20.和泉市のまっさらな大きな病院が市躍進の証拠

市道の「郷荘橋」を見た所でハンドルを反転させ府中市街に戻ることにする。この先 3km ほどは橋が無いのでその先の橋は次回に見ることにして、和泉国の国府庁跡を見に行くことにする。自転車だといろいろな所に寄り道出来るのが魅力である。観光案内所でもらった地図で「御館山公園」を目指す。公園は何処にでもあるミニ公園でその北西角に国府庁跡の石碑がひっそりと有る。

飛鳥時代から続く国の名で和泉だけが読みが「いずみ」なのに和が付いている

のを子供の頃から不思議に思っていたが、国名は全て漢字の二字表記になっているので「泉」に和を無理やりつけて二字にしたのだろうと判断していたがどうやらピンポンのようだ。

和泉国は河内から分離した国というのを解説板から知り、また泉が近くの井上神社の境内から湧き出したことから国名になったのも知る。時代が下り人口の増加、産物の増加から国の分離が進んだようで、かつての「陸」、「羽」、「越」、「備」、「豊」、「肥（火）」国が2~3国に分離し、それぞれに「前、中、後または奥」を付けた。美作は備前からもう一度分離した国である。野（毛）国は「上、下」に分かれ野は上に上下の字を付けた例外である。JR 両毛線の線名はここから生じている。



21.ミニ公園の片隅に「和泉国府庁跡」の碑が



22.和泉国の由来が分かったぞ！

公園の直ぐ近くの「泉井上神社」にも立ち寄り珍しい形式の社殿を見ておくことにする。この神社は近隣の神社の神を合祀した総社である。岡山県には総社から採った総社市がある（んじゃ）が全国には多くの総社が有るんだな。



23.国名の元となった泉が出た神社に



24.神功皇后が朝鮮に出兵のおり立ち寄ると清水が湧き出たとのこと





25.泉井上神社の社殿は豊臣秀頼が再建



26.同じ形式の社殿がもう一つ

駅前まで戻り食べ物屋を探すがそれらしき店が無く、やっと見つけた店が「王将」。王将とは三度目のご来店である。あんかけ五目ラーメンがあったので時次郎にあやかりこれをオーダーする。

観光案内所に再度立ち寄り暫し市の話をして駐輪場に向かい自転車を返す。電動アシスト自転車なら踵の痛みも無くあちこち立ち寄れるのでグーだ。

本日の輪行距離：15.0km。調査した橋の数：28。

総歩行距離：10,735.1km。総調査橋数：14,031。

使用した1/25,000地形図：「岸和田東部」（和歌山10号-1）